

OKINAWA GENERAL CONSTRUCTORS ASSOCIATION

沖建協会報



令和7年

9
月号

No.664

今月号の主な内容

- ◆ 県選出国会議員との意見交換
- ◆ 地域別産学懇談会
- ◆ 高校生小型車両運転特別教育



目次

<NEWS>

県選出国会議員との意見交換	1
松田内閣府審議官が来協	3
北大東村冠水被害で応急対応	3
地域別産学懇談会で意見交換	4
高校生の小型車両系建設機械運転特別教育	5
高校生対象の建設業経理事務士4級特別研修	5
美来工科高校の生徒らが現場見学	6
青年部会がフォトコンテスト募集PR	7
青年部会が高校生向け現場撮影会	7
女性部会が沖縄総合事務局とリコチャレ	8
支部活動報告	9
八重山支部 農水センター・土木事務所と意見交換	
八重山支部 石垣島農業水利事業所の工事説明会に参加	
南部支部 県南部土木事務所に要請	
南部支部 県南部農林土木事務所に要請	
那覇、南部、北部支部 CPDS/Webセミナー受講	
宮古支部 離島甲子園開催で寄付金贈呈	
浦添・西原支部 西原町長と議長に要請	
那覇支部 ソフトボール大会で国場組Aが優勝	

<建設雇用改善推進コーナー>

教えてください！我が社の働きやすい職場づくり	13
Message～後輩たちへ	14

<お知らせ>

西日本建設業保証からのお知らせ	15
-----------------	----

<事務局から>

協会の動き	16
今後の日程	16

<会員の異動>

	17
--	----

<表紙写真>

【青年部会第16回フォトコンテスト ～島の魅力～優秀作品より】

〔造の部 優秀賞〕

題 名：皆んな気になる夜の大工事
撮 影 者：山内 優貴
撮影場所：城間歩道橋（浦添市）

県選出国會議員との意見交換会を開催

〰〰〰〰〰〰 沖縄振興予算拡充や地域課題解決に向け提言 〰〰〰〰〰〰



津波会長(左から8人目)が議員に要請書を手渡し、課題の共有を図った



(左から) 國場議員、宮崎議員、松下県議、島尻県議

沖建協と(一社)沖縄県建設産業団体連合会は8月7日、那覇市のザ・ナハテラスで県選出国議員との意見交換会を開き、2026年度沖縄振興予算の拡充や県内建設企業の受注機会確保などを要請。県内各地域の課題解決に向けた政策・施策推進に関する取り組みを求めた。

意見交換会には、自由民主党から國場幸之助衆議院議員と宮崎政久衆議院議員、公明党から金城泰邦衆議院議員(代理・松下美智子県議)、また自民党沖縄県連から島尻忠明幹事長代理の4人が出席。沖建協からは津波達也会長をはじめ、5副会長、各支部長、各委員会の委員長、建産連からは各団体の会長や役員、事務局長らが参加した。

津波会長は「意見交換会を通じて課題の共有を図り、今後の取り組みにつなげていきたい。国からの支援も得ながら、若い世代が希望を持てる業界を築いていきたい。企業の適正利潤が守られれば、人材育成などのさまざまな課題が解決に向か

うと思っている」と期待を込めた。その後、参加議員らに対して要望書「沖縄振興予算に係る公共事業関係費の拡大確保並びに県内建設企業への優先発注について」を手交。沖建協本部と各支部、建産連構成団体が要望事項を説明した。要望事項は①芽出し事業②制度並びに技術的な項目③その他事項—の3項目。このうち芽出し事業では、那覇支部が市域内の新たな公共交通軸として期待されるLRT(次世代型路面電車)導入と那覇軍港跡地開発の推進を要望。南部支部は南部東道路や国道507号、平和の道線などの道路整備事業推進、浦添・西原支部は米軍牧港補給地区(キャンプ・キンザー)返還に伴う予算措置や港川地区の整備支援、沖縄都市モノレール(ゆいレール)延伸による交通利便性向上、北部支部は北部医療センター事業での国によるバックアップ体制の構築、名護東道路や地域道路網の早期整備、県・市営団地の整備推進、自動運転バス・タクシーの導入実現な

どを求めた。また、宮古支部は有事に備えたシェルターを完備する施設整備や宮古空港の機能強化、防災予算を活用した道路維持管理など、八重山支部は石垣空港の滑走路延長や空港線等主要道路整備の必要性を訴えた。

制度・技術的な項目については、沖建協本部が国土強靱化計画の着実な実施、公共事業関係費の拡大確保、最低制限価格（低入札調査基準価格）の引き上げ、歩掛見直しと適正工期設定、建設業に即した働き方改革を踏まえた施策などを求めた。各支部は、改正品確法に基づく適切な予定価格設定の厳守、物価変動に伴うスライド条項の受注者負担撤廃、市町村発注工事における週休二日制と適正な工期・設計単価の指導徹底、最低制限価格や管理費の底上げ、全公共工事での物価スライド適応などの要望が示された。また、(一社)沖縄県電気管工事業協会はPPP／PFI事業に関する県内建設業参画支援体制の構築、営繕工事での地域外労働者確保に要する費用の運用拡大などについて指摘。このほか、沖縄県管工事業協同組合連合会が配管工の公共工事設計労務単価の設定、(一社)沖縄県建築士事務所協会が建設コンサルタントにおける最低制限価格の引き上げ、(一社)沖縄県造園建設業協会が国際観光景観モデル事業対象路線拡大と必要予算確保などを要請した。

その他事項では、沖縄県磁気探査協会が那覇空港不発弾探査事業での県内業者優先活用、沖縄県生コンクリート工業組合は県内資材調達への配慮や再生技術によるスラッジ廃材活用について意見を述べた。

要望を受けた國場議員は「賃金や調達価格の上昇、人手不足はあらゆる業種で深刻化しており、建設業界に限らず社会全体で対策を模索する必要がある」と指摘。その上で、「国土強靱化計画の予算拡大に伴い、予防保全型メンテナンスや老朽化対策、防災・減災対策を進める。橋梁や上下水道の更新については早急に取り組む必要がある」と述べた。さらに離島空港の機能強化に関し台湾有事を想定した大規模避難計画について触れ「滑走路延長や機能向上を優先的に進めるための制度



あいさつする津波会長

活用が重要」と強調した。公共工事の積算基準見直しについては「担い手確保や契約適正化の観点から引き上げに取り組む」と述べた。那覇軍港返還跡地利用やLRT整備については、総合的に最適な形で進めたいとした。

宮崎議員は、浦添・西原支部が求めた港川地区整備に関して「しっかり支援したい」と強調。モノレール延伸については「住環境改善や駅前開発などの経済効果大きい。『モノレールの普及を応援する議員連盟』で役員を務める立場として国交省との調整は進めており、必ず了解を取り付けていく」とし、実現に向けて一緒に取り組む姿勢を示した。

また、北部医療センターや自動運転導入、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律を活用した道路整備、県内企業が参入しやすいような不発弾探査事業の区画見直しなどにも言及。公共工事の物価スライドや資材高騰対応については「物価上昇を上回る賃上げと成長型経済の実現を考えており、今後の概算要求や補正予算に反映させる予定。一つひとつ確実に取り組んで前に進めていく」と述べた。

松下県議は「県としても現場の声を聞きながら、しっかり取り組まなければならない部分が多くあった」との認識を示した。島尻県議は「建設業の思いを反映させ、関係機関と協力して取り組んでいきたい」と語った。

閉会にあたり新里英正副会長が「協会が今後も持続的に発展していくためには、利益の確保と次世代の育成は欠かせない。来年度予算の拡充を期待し、業界としても適正利潤の確保に努めていく」と述べ、会を締めくくった。

松田浩樹内閣府審議官が就任あいさつで来協

内閣府審議官に7月1日付で就任した松田浩樹氏が8月7日、就任あいさつで沖建協を訪れ、津波達也会長や副会長らと懇談した。

松田審議官は、骨太方針2025に新しく「GW2050」の早期実現に向けた取り組みが盛り込まれたことを報告。このほか、資材価格の高騰や公共工事予算の減額など、業界を取り巻く課題についても意見を交わした。

津波会長は「沖縄のために力を貸していただきたい」と協力を求め、松田審議官は「現場の声を踏まえ、沖縄の発展に全力を尽くす」と応じた。

松田浩樹(まつだ ひろき)氏経歴

兵庫県出身。1966年生まれ。1989年に東京大学法学部を卒業後、旧自治省に入省。2022年に内閣総務官に就任。2025年7月、内閣府審議官として、国の重要施策の調整・推進に携わっている。



懇談で笑顔を見せる松田審議官



松田審議官(中央)と津波会長ら

北大東村の冠水被害でオパスと与儀組が応急対応

大東島地方では台風8号による大雨の影響で7月24日～28日、浸水・冠水被害が発生し、沖縄総合事務局は沖建協、沖縄県との3者災害協定に基づいて被害地域の排水支援を要請。これを受けて沖建協会員企業のオパス(株)と(株)与儀組が排水作業に協力した。

沖総局は情報収集と支援のため29日から県庁にリエゾン2人、北大東村にTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)2人の職員を派遣。8月1日には北大東村からの要請を受けて排水支援のための排水ポンプ車を手配し、排水ポンプ車のオペレーターとしてオパスから3人が派遣された。3日には、南部国道事務所の排水ポンプ車が島に到着し排水作業を開始。その後、与儀組による小型排水ポンプも設置され、排水作業は7日に完了。8日にTEC-FORCEが引き上げ、11日間の活動を終了した。

北大東村の鬼塚三典村長は「自衛隊による排水作業と沖総局の技術的支援、協力して頂いた関係者の皆さんのおかげで、宅地・道路の浸水は解消



冠水箇所への吸い込み口設置(沖総局HPより)



小型排水ポンプ設置作業(沖総局HPより)

した」と謝意を示した。県の災害対策本部は8月7日に廃止され、応急対応が完了。今後は復旧対応を進める。

地域別産学懇談会で高校教諭や各地区職安らと意見交換

令和7年度地域別産学懇談会を8月1日から21日にかけて開催。各公共職業安定所の管内ごとに協会本部と各支部、建設系学科がある工業高校の教諭、各地区の職安職員らが参加し、建設業への新規学卒者雇用などについて意見交換を行った。

8月1日に行われた那覇地区の懇談会では、工業高校教諭から「資格を取得できなかった生徒が他産業に進む傾向があるため、支援の充実が必要」と指摘があった。これに対し沖建協の久高唯和事務局長は、高校生対象の現場見学会や資格取得支援などの取り組みを紹介した上で「業界を知り、資格を取得して自信をつけ、建設業に進んでほしい」と強調した。

学校側は引き続き取り組みとして、卒業後1年間にわたり、就職先と本人への聞き取りを行う定着指導を実施していることや、高校生が小学生に建設業の魅力を伝える「こども木工教室」などの活動に取り組んでいることを報告。

8月13日に実施した中部地区懇談会では、学校教諭が「CAD室のコンピューターが更新されず、いまだにWindows 7のOSを使用している」と現状を報告。「JWCADソフトも不具合が起きており、BIMでの図面制作指導もできず困っている」と訴えた。これに対し源河専務は「CADは基本的な技能であり、生徒が十分に学べる環境に整える必要がある。県に対して県立高校のパソコン設備更新支援を求めている」と述べた。

懇談会では「沖建協の雇用改善推進事業の取り組み」の報告が行われたほか、各地区の職安職員が新規高卒者の就職活動状況などを報告。事業者の求人提出や高校生の就職活動の開始が全国に比べて遅いと指摘し、改善を求めた。また、沖縄の新規高卒者の3年以内離職率は約5割で全国平均を上回っており、特に1年目の離職率に差が大きいと強調。業界への理解促進や早期就職活動を通してミスマッチを防止するよう呼び掛けた。



8月1日に行われた那覇地区懇談会



宮古地区では8月4日に実施



8月5日の八重山地区懇談会



8月13日の中部地区懇談会



8月21日の北部地区懇談会

小型車両特別教育で生徒らがミニバックホー操作学ぶ

建災防沖縄県支部と連携で実施している高校生向けの「小型車両系建設機械(整地・運搬・積み込み・掘削用)運転特別教育」が7月22日から8月6日までの間、沖縄市海邦町の建設業安全衛生技術センターで行われた。

建設業への入職促進などを目的に受講料の一部を負担し、高校生を対象に実施。1日目の学科講習で車両の構造や取り扱い、作業方法、運転に必要な知識を学び、2日目は走行操作や作業のための装置の操作など実技に取り組んだ。修了証は卒業式の日に交付される。

期間中に参加した沖縄工業高校と美里工業高校、美来工科高校、浦添工業高校、南部工業高校、名護商工高校の3年生は、ミニバックホーの操作指導を受けて運転技術を身に付けた。美来工科高校土木工学科の仲本爽汰さんは「難しかったが落ち着いてやればできた。家族が土木関係の仕事をしているので操作に興味があった。県内就職が希望なので、今日学んだことを生かしたい」と話した。

講師の長嶺由秀氏は「生徒たちが真剣に取り組んでくれたので、指導しやすかった。楽しみながら学べるよう工夫したこともあり、教える喜びを感じ



沖縄市の実技でバックホーを操作



指導者から操作を学ぶ八重山商工の生徒

ました」と語った。

八重山地区でも8月7、8日に同特別教育を行い、八重山商工高校3年生12人が受講。機械電気科の金城英喜さんは「操作は難しかったが、楽しく学べた。進路は建設関係の仕事を目指しており、今回の学びを将来につなげたい」と意欲を見せた。

建設業経理事務士4級特別研修を実施

8月7日と8日の2日間、浦添市の建労センターで県内工業高校生を対象とした建設業経理事務士4級特別研修を実施した。今年は沖縄工業高校など5校の生徒33人が受講。資格取得を目指して建設業の経理知識を学んだ。

講師を務めた税理士法人みやこの伊計孔雄氏は、開講にあたり「経理は会社の動きを数字で捉える重要な業務。必ず役立つ知識なので、この機会を大切にしてほしい」と呼びかけた。研修初日は、簿記の基本や帳簿の種類、仕訳から試算表作成までの流れを解説。2日目はグループに分かれて演習形式の講義を受けた。90分間の本試験も行われ、生徒らは真剣な表情で問題に取り組んでいた。



資格取得に向け学習した生徒たち

受講した名護商工3年の上原瑠海さんは「就職後に役立つと思い受講した。初めてだったが思ったより理解できた」と話した。浦添工業3年の友利有花さんは「表を使う学習は初めてで難しかったが、苦手な部分を把握することができた」とふり返った。

美来工科高校土木工学科の生徒らが現場見学

建設業の魅力を伝えることを目的とした現場見学会を7月16日に開いた。参加したのは美来工科高校土木工学科1・2年生の58人で、(株)屋部土建が「令和5年度新川地区改良外工事(屋部土建施工)」、(株)大林組が「小祿道路ボックスカルバート工事」(那覇市)の現場で生徒を受け入れ、工事概要や最新技術などを紹介した。

屋部土建の現場では、ICT建設機械による掘削作業で3D設計データを重機に取り込み、位置や傾きを自動で制御する技術を紹介した。生徒らはタブレット端末で建機の動作を確認し、操縦席で操作を体験。施工精度の高さや最新技術の利便性に驚いた様子が見られた。このほか、出来形ヒートマップを活用したARでの偏差確認、杭ナビによる出来形計測、遠隔臨場による現場管理など、建設DXの取り組みも披露。一連の説明とデモンストレーションを通じて、業界全体が目指す効率化やスマート施工の重要性を伝えた。

現場代理人の玉城翔太氏は「きょう見学する現場は、最先端の技術を活用している。建設業の新しい一面を知って、将来の選択肢に建設業を加えてもらえたらうれしい」と呼び掛けた。

小祿道路の現場では、工事概要や施工手順、地域の拝所への配慮に加え、ICT技術の活用について説明。施工ステップごとに作成したCIMモデルは、既設構造物との取り扱い確認や施工時の課題の事前把握、作業員教育に生かされていることを紹介した。VR映像を用いた視覚的な施工手順の学習も行い、現場でのデジタル技術の有効性について説明した。

見学後、入社1年目の宮都孝直氏が「学生時代に学んだ公式や力学は現場でも頻繁に使う。授業と現場がつながっていることを意識して学んでほしい」とアドバイス。参加した1年の城間惟安さんは「学んだことを学校でも生かし、後悔のないように勉強したい。将来は人々の生活を便利にし、大切なものを守れる仕事に就きたい」と語った。



現場のデジタル化を体験した(新川地区工事)



ICT建機を使った掘削に挑む生徒(新川地区工事)



VR映像を確認した(小祿道路工事)



拝所の説明を受ける生徒たち(小祿道路工事)

青年部会がフォトコンテスト募集PRで新聞社表敬

青年部会(古波蔵太志部会長)は、「第17回フォトコンテスト～島の魅力～」のPRなどを目的に県内各新聞社を表敬。7月17日には(株)沖縄建設新聞を訪れ、古波蔵部会長と大城壮司副部会長、入佐学広報委員長が「島の魅力を届けてほしい」と応募を呼び掛けた。

フォトコンテストは、建設業の持つ社会的役割や地域に根差す魅力を幅広く伝えることを目的に毎年実施している。17回目を迎える今回は新たな試みとして県内高校生を対象とした「建設現場撮影会」を開催する。現場を直接体験することで建設業の実像を若い世代に知ってもらう機会となり、業界への理解、応募増加へとつなげる狙いがある。

募集部門は、建設業に従事する人々の働く姿を題材とした「人の部」と、建設業が築く構造物の美しさや存在感を切り取る「造の部」の2部門を設定。各部門から最優秀賞、優秀賞、学生賞、現場で働く美ら小町賞などを選出し、多様な観点から建



PRする古波蔵部会長(左)ら

設業の価値を表彰する。

古波蔵部会長は「応募数は近年横ばいが続いている。今回、初めて高校写真部の生徒を対象に撮影機会を設けたことで、学生を中心に若年層の参加を促したい。フォトコンテストを通して建設業の魅力を社会に発信していく」と語り、取り組みに強い意欲を示した。

作品の応募受付は8月15日に終了。表彰式は11月17日に県庁1階ロビーで開く予定。

青年部会が高校生向け現場撮影会開く

青年部会(古波蔵太志部会長)は8月6日、高校生向けの現場撮影会を開いた。青年部会が実施しているフォトコンテストへの高校生の参加を促すことなどが目的で、写真部所属の生徒らを現場に案内した。

6日の撮影会では、豊見城南高校美術部の1年生3人を「豊見城高架橋床版工(下りP31～P45)工事」現場に案内。生徒らは、施工を担当する(株)屋部土建の仲宗根義樹現場代理人から業務内容や工事概要の説明を受けた後、現場に移動。工事中の構造物や職人の姿を熱心に撮影した。参加した大宮穂乃花さんは「撮影を通して道路がどう造られているかを知り、多くの人が関わっていることを実感できた」と笑顔を見せた。引率の當眞可南子教諭は「生徒が職人と話す姿を見て新たな一面を見た」と話した。



作業風景を撮影する生徒たち



撮影会に参加した皆さん

女性部会が沖総局と「夏のリコチャレ2025」開催

女子学生と保護者が建設業体験

女性部会(糸数幸恵部会長)と沖縄総合事務局の女性技術職員による「夏のリコチャレ2025『ミライをつくる建設女子のしごと体験ツアー』」が8月1日に開催された。内閣府男女共同参画局の「リコチャレ2025」の一環で実施したもので、県内の女子学生と保護者のあわせて17組33人が参加。インフラ事業の紹介や現場見学、仕事体験を通じて建設業への理解・関心を深めた。

参加者は、沖総局開発建設部インフラDXルームで、同部が推進するプロジェクトや建設DXの概要について説明を受け、復元工事が進む首里城のVRツアーを体験するなど最新技術を体感した。

その後、那覇港新港ふ頭地区の現場に移動し、「令和7年度那覇港(新港ふ頭地区)岸壁(-10メートル)(耐震)ケーソン工事」(株)大米建設施工)を見学。FD船上や船内を巡り、ケーソン完成イメージのARによる見える化、施工過程を再現したVR、ドローン体験などICTを活用したプログラムを実施した。現場を案内した大米建設の新垣さくら氏は「女性だからこそ気づける細やかな配慮が、働きやすい現場づくりにもつながっている。進路の一つとして考えてほしい」と呼びかけた。

体験に参加した沖縄市立美東中3年の下川月夜さんは「現場に入ることができて貴重な経験になった。工業系高校への進路を検討しているのでイメージが広がった」と話し、母親の美三さんも「女性が活躍する姿を見て安心した。娘の将来を後押しできる」と現場の印象を述べた。糸数部会長は「参加者から『女性でも活躍できると分かった』との声があった。建設業は土木や建築だけでなく多様な分野で女性が力を発揮できる。今回の体験が進路の参考になれば」と述べ、「今後も工夫を重ね、建設業の魅力を次世代に伝えていきたい」と語った。



首里城VR体験



ドローン体験



FD船上でのAR体験



参加者及び女性部会スタッフの集合写真

■八重山支部が農水センター・土木事務所と意見交換

八重山支部(平良聡支部長)は7月15日、八重山建設会館で、県八重山農林水産振興センター農林水産整備課と県八重山土木事務所との意見交換会を開いた。支部からは平良支部長のほか丸尾剛副支部長、照屋晃副支部長ら18人が出席して、業界の実情を踏まえた改善策などを話し合った。

平良支部長は「建設業界は人材確保や週休2日制の推進、猛暑に伴う熱中症対策、働き方改革などに取り組んでいるほか、資材価格高騰への対応や離島特有の物流コスト負担など、さまざまな課題も抱えている。現場の実情に基づいた具体的な意見交換を通じて、より現実的かつ効果的な支援策の実現を目指したい」と呼び掛けた。

農林水産整備課との意見交換には、鬼塚雅宣課長と多和田真澄班長、崎山育子班長、比嘉正隆班長が出席。八重山支部が今年度と次年度の発注予定工事について説明を求めた。また、営農スケジュールを踏まえた柔軟な工期設定、磁気探査業務に関する入札時期の調整、資材・燃料費高騰への対応、週休2日制の推進、熱中症対策費の制度化、離島特有の施工条件への配慮、次年度予算の確保・拡充など、多岐にわたる要望を伝えた。

八重山土木事務所との意見交換では、山根博



農水センターが予定工事を説明



土木事務所との意見交換

文所長や金城寧班長、具志堅勝也班長、高山秀司班長、渡真利尚樹班長、上原健主幹が出席。週休2日制の導入に伴う工期延長やコスト増への予算措置の強化、熱中症対策にかかる費用の積算明記と加算措置、設計労務単価や予定価格の見直し、中小・地場企業に配慮した補助制度の整備、発注件数の増加などについて意見を交わした。

■八重山支部が農業水利事業所の工事説明会に参加

八重山支部(平良聡支部長)では7月25日、八重山建設会館で沖縄総合事務局石垣島農業水利事業所による工事説明会が開かれ、支部会員企業から18人が参加した。平良支部長は「老朽化や台風など現場には課題が多い。事業の理解を深め施工体制の充実につなげたい」と述べた。

事業所側は国営かんがい排水事業「石垣島地区」の進捗や2025年度工事計画を説明。大浦3号送水路伊原間工区(その6)工事をはじめ、石垣北部送水路伊野田工区(その3)工事、平喜名堰仮回し流路工事などが予定されているとして、地元企業の積極的な参加を呼びかけた。工事契約では総合評価落札方式の地域精通度や週休2日制の



担当者の説明に耳を傾ける支部会員ら

変更点を説明し、労務費などに補正係数を適用するとした。さらに「工事書類省力化の手引」に基づき電子化を進め、現場負担軽減を図る方針も示した。

支部活動報告

■南部支部が県南部土木事務所に安定発注など要請

南部支部の徳元猛支部長らは7月28日、県南部土木事務所を訪ね、工事の安定発注と工事中止時の対応、地元企業の受注機会確保などに関する要請を行った。要請には徳元支部長のほか、本部憲治副支部長と新垣澄夫事務局長が同行。仲本隆所長と面談して対応を求めた。

要請内容は、①工事中止とならないような発注 ②南部地域における各事業の早期竣工および南部支部協会員への配慮一の2点。

徳元支部長は「受注者に責任のない理由で施工が困難となった場合、速やかに工事中止などの変更協議を行ってほしい。また、発注図面の不備を未然に防ぎ、工事中止とならない発注に努めてもらいたい」と述べた。さらに南部東道路、国道507号、平和の道線など進捗が停滞している事業について早期竣工を求めた。併せて、当該工事の業者選定にあたり、支部会員企業への配慮を要望した。



仲本所長(左から3人目)に要請書を手渡す徳元支部長(同2人目)

仲本所長は「工事中止を避けることは大切だが、施工段階で新たな課題が生じる可能性もある」と理解を求めた上で、「中止となった場合は県の法令に基づいて適切な対応に努めたい」と応じた。さらに管内事業については引き続き予算確保に努めるとした上で、「地元企業に配慮した参加要件を設定し、大規模工事では分割発注やJV対応を行うなど、引き続き地元企業の受注機会を確保していきたい」と述べた。

■南部支部が南部農林土木事務所に離島工事への対応求める

南部支部(徳元猛支部長)は7月30日、県南部農林土木事務所の新垣善史所長を訪ね、離島地域の漁港工事に関する作業員確保に向けた適切な積算や、支部会員の受注機会確保を求める要請を行った。徳元支部長のほか、本部憲治副支部長、新垣澄夫事務局長が同行し、新垣所長に課題の改善を求める要請書を手渡した。

徳元支部長は「離島工事では本島との往復を繰り返さざるを得ない場合があり、作業員の確保も厳しい状況にある」と実情を指摘し、作業員の渡航費や宿泊費について満額支給を求めた。さらに現場管理者についても「現場管理費だけでは渡航・宿泊費を十分に賄えない」として、積算において見積もりの活用を行い、予定価格に反映させる必要性を訴えた。このほか、業者選定での支部会員への配慮も要望した。

新垣所長は「全県的に技術者の確保が難しくなり、それを起因とする入札不調も増加傾向にあ



新垣所長(左から2人目)に要請書を手渡す徳元支部長(同3人目)

る。特に離島工事では、その対応がより重要であると認識している」と要請内容に理解を示した。その上で、「積算については地域外からの参入に関する基準を設けており、入札公告で明確に示していきたい」と説明した。支部会員の配慮については「引き続き管内企業への発注に努めるとともに、災害復旧などでも協力関係を維持していきたい」と呼び掛けた。

■那覇・南部・北部支部がCPDS講習会

現場管理者の技術向上を目的としたオンライン講習(CPDS認定・7ユニット)が実施され、会員企業の現場担当者らが受講した。7月15日の那覇支部(黒島一洋支部長)は14人、16日の南部支部(徳元猛支部長)は35人、23日の北部支部(仲程俊郎支部長)は24人が参加した。

講習は「コンクリート工事における留意点」をテーマに、現場での監督員のチェックポイントや施工計画と施工時の注意点などを講師の戸所俊雄氏(合同会社クロソイド代表)が解説。施工計画の記載事項やひび割れ抑制、品質管理と検査などについて説明した。

また、鉄筋工事や型枠・支保工組立、生コン発注と受け入れ、コンクリート打設、養生、打継目、脱型枠、支保工撤去など、一連の工程で必要となる確認事項についても解説。この中で戸所氏は、コンクリート打設時には圧送計画で所要の品質が得られるようコンクリートポンプの機種や圧送条件を合理的に選定しているが、輸送管の閉塞予防と措置があらかじめ計画されているか、段取り替えで生じる不具合の予防計画がされているかを確認することが重要になるなどと注意を促した。



那覇支部会員企業の担当者ら



南部支部では35人が受講した



受講する北部支部会員の担当者

■宮古支部が離島甲子園の開催で寄付金贈呈

宮古支部(友利勝人支部長)は7月30日、「第16回全国離島交流中学生野球大会(離島甲子園)」の開催支援として、大会実行委員長の嘉数登宮古島市長に寄付金を贈呈した。大会は宮古島市内の伊良部球場などを会場に8月18日から22日まで全国から24チームが参加して熱戦を繰り広げた。

寄付金の贈呈式で友利支部長は「子どもたちや離島住民にとって喜ばしい大会。離島というハンディを抱えながらも子どもたちが楽しんで野球ができることは大変貴重な体験となる。全チームとも野球を楽しみ、宮古島で有意義に過ごしてほしい」と語った。

寄付を受けた嘉数市長は「離島の子どもたちはスポーツ活動などで島の外に出て交流する機会が



限られている。交流の輪を広げるとともに、宮古島の観光も楽しんでもらえれば」と激励した。

同大会は離島に暮らす中学生の健全な育成促進などを目的に、全国各地の離島を会場として毎年開催されている。宮古島市での開催は初めて。

支部活動報告

■浦添・西原支部が西原町にモノレール延伸への協力求める

浦添・西原支部(内間司支部長)は8月6日、西原町の崎原盛秀町長と大城純孝議長を訪ね、沖縄都市モノレールの拡充整備に関する要請を行った。中南部都市圏域の骨格となる軌道系公共交通機関の実現に向け、都市モノレール網の拡充整備を明確に位置付けた都市交通体系の計画策定への取り組み推進を求めた。

要請書では、交通渋滞の改善には大量性・定時性・快適性を備えた軌道系公共交通が優位だとし、県内で実績があり道路交通への負担が少ないモノレール網の整備が適切と説明。内間支部長は「さまざまなフィーダー交通計画があるが、モノレール延伸が最も実現性が高い。環状線とすることで地域経済も発展する。今後は沖建協本部の活動にも結び付け、地域を巻き込んだ取り組みにしたい」と語った。

崎原町長は「建設業界からモノレール延伸に向けた動きが出てきたことは心強い。町では今年度策定予定の都市マスタープランに、てだこ浦西駅か



崎原町長(左から4人目)と大城議長(同5人目)に要請書を手渡した

ら大型MICE予定地を結ぶ都市モノレール等の交通計画図を盛り込む方針だ」と述べた。大城議長も「交通課題計画に向け、モノレール延伸が現実的な手段」との認識を示した。

モノレール延伸を巡っては、沖縄県都市モノレール延伸・利用促進協議会が中部方面へ向かう縦貫線や西原・与那原町を経由する環状線構想を盛り込んだ(仮称)サンシンネットワーク構想を提唱。浦西支部では同構想に賛同し、各方面への協力体制づくりを進めている。

■國場組Aが王座奪還 一那覇支部ソフトボール大会一

那覇支部(黒島一洋支部長)は8月9日、豊見城市の瀬長島野球場で第44回ソフトボール大会を開催し、出場した支部会員12チームが熱戦を繰り広げた。開会式で伊志嶺匡副支部長は「暑さに負けず素晴らしいプレーを期待する」と挨拶。(株)東恩納組主将の東江力選手が選手宣誓を行った。

試合は、予選から勝ち上がった(株)國場組Aと安岡建設(株)が決勝で対戦。序盤から互いに得点を重ね、5回終了時点で8対8の同点となり、6回からタイブレークに突入。10対10のまま決着がつかず、最後はじゃんけんで國場組Aが勝利し栄冠を手にした。國場組Aは昨年の大会で準優勝、11月の浦添・西原支部との交流大会では優勝と好成績を挙げている。

個人賞は打撃賞1位東克洋氏(安岡建設)、2位池宮城龍志氏(安岡建設)、3位山里琉景氏(國場組)。レディース賞は安護茜里氏(國場組)が



12チームが大会に挑んだ



優勝した國場組Aチーム

受賞した。

教えてください！我が社の働きやすい職場づくり

建設
雇用改善
コーナー



職場の働き方改革、どんなことをしてますか？

安岡建設(株)
専務取締役
東 克洋さん



- ・毎週土日は休業を基本とし、雨天等の休日出勤は必ず振替休暇を取得するように促している。
- ・店社パトロール時に、ワークライフバランスを点検項目に加え、残業時間、休日取得状況等を定期的に点検できるシステムを構築。
- ・クラウド勤怠管理システムの採用、積算業務から現場管理ソフトのDX化、3Dデータ作成ソフトとICT施工現場対応測量機器の導入であらゆる業務を省力化。
- ・毎週水曜日をノー残業dayとし、現場事務所に啓発ポスターを掲示する等、週40h労働に努めている。さらに育児休業取得も積極的に推進し、男性社員の取得実績がある。
- ・弊社代表による休日取得状況などの点検を月例で行い、必要に応じてメンタルヘルスのチェックも行っている。
- ・積算システムをクラウド化し、在宅業務を可能とした。



社員の健康管理や福利厚生、何をしてますか？

- ・ソフトボールやフットサル大会に積極的に参加し、定期的に練習日を設け健康増進に取り組んでいる。
- ・各作業所毎に疾病予防及び熱中症対策の充実を図っています。
- ・月例の会議では各現場の成功例や問題点を共有。大事なコミュニケーションの場となっている。また、社員旅行や親睦会を定期的に行い、チームワークの強化を図っている。
- ・熱中症及び疾病予防対策に掛かる費用は全額会社が負担し支給している。(空調服、防寒着、スポーツドリンク、応急対策ツールなど)
- ・スポーツジム利用回数券を支給。



工事部
仲榮眞 稜大さん



社員向けの支援や社会貢献など、どんなことをしてますか？

- ・おきなわSDGsパートナーとして、させられる仕事から自主的に考え、やりがいのある職場づくりをモットーに若い職員の意見を積極的に取り入れている。全社的にしっかりフォローできるシステムを構築、運営している。各現場で月例清掃活動や、地域ボランティア活動など積極的に参加。
- ・資格取得にかかる費用は全額支援し社員の技術力向上に努めている。
- ・社員及び家族の県外派遣等を積極的に支援。
- ・施工説明会を開催し、工業高校や専門学校の学生を招待。
- ・優良作業所担当者へは社内規定に基づき賞金を授与する等、社員のやる気アップを図っている。



工事部課長
高江洲 臣さん



ありがとうございました！

今後とも、働きやすい職場づくりの取り組み紹介を通して、建設業の魅力を幅広く発信していきます。皆さんからの情報提供お待ちしております！

経験の積み重ねで自分の力に

建設業は自分の手で形を残すことのできる、とてもやりがいのある仕事だと思います。就職したばかりの頃は、分からないことが多く戸惑うこともあるかもしれませんが、でも、焦らず一つひとつの仕事に向き合い、経験を積み重ねていけば、必ず自分の力になります。自信を持って頑張ってください。

担当した現場



「令和6年度新川地区改良工事」の現場で写真管理・安全管理などを行っています。



沖縄工業高等学校出身

湧川 秀也さん(19歳)
(先嶋建設株式会社 土木部)

わくがわ しゅうや／浦添市出身／2024年3月沖縄工業高等学校卒業／2024年4月先嶋建設株式会社入社

入職のきっかけ：建設業は社会基盤を支える仕事で、人々の暮らしに欠かせない分野なので、安定したニーズがあると思います。沖縄工業高校で土木について学びました。学校からの紹介を通じて、インフラ整備などで確かな実績を持つ先嶋建設に魅力を感じ、入社を決めました。

将来の夢・目標：1級土木施工管理技士の資格取得が目標です。一人前の技術者として成長し、将来後輩ができたとき、自分が身につけた技術や知識を伝えられる立場になることが私の夢です。

沖建協「見える化」イメージアップキャラクター 「あんぜんぼーや」を現場へつれてって!!

地域と共に、未来を築く



Okinawa General
Constructors
Association

あんぜんぼーや

OCA

私たちは、沖縄県建設業協会会員です。



一般社団法人

沖縄県建設業協会

Okinawa General Constructors Association



建設業界のイメージアップと沖縄県建設業協会会員の「見える化」を図るため、協会のイメージアップキャラクター「あんぜんぼーや」のシールを作成しました。(A4サイズ、A3サイズ)

協会会員が施工する建設現場の出入り口など人目に触れる機会の多い場所に貼って、協会会員であることを示すPR活動に使用してください。

追加で必要な場合は、所属支部窓口で配布します。

沖縄県内の公共工事動向（令和7年7月分）

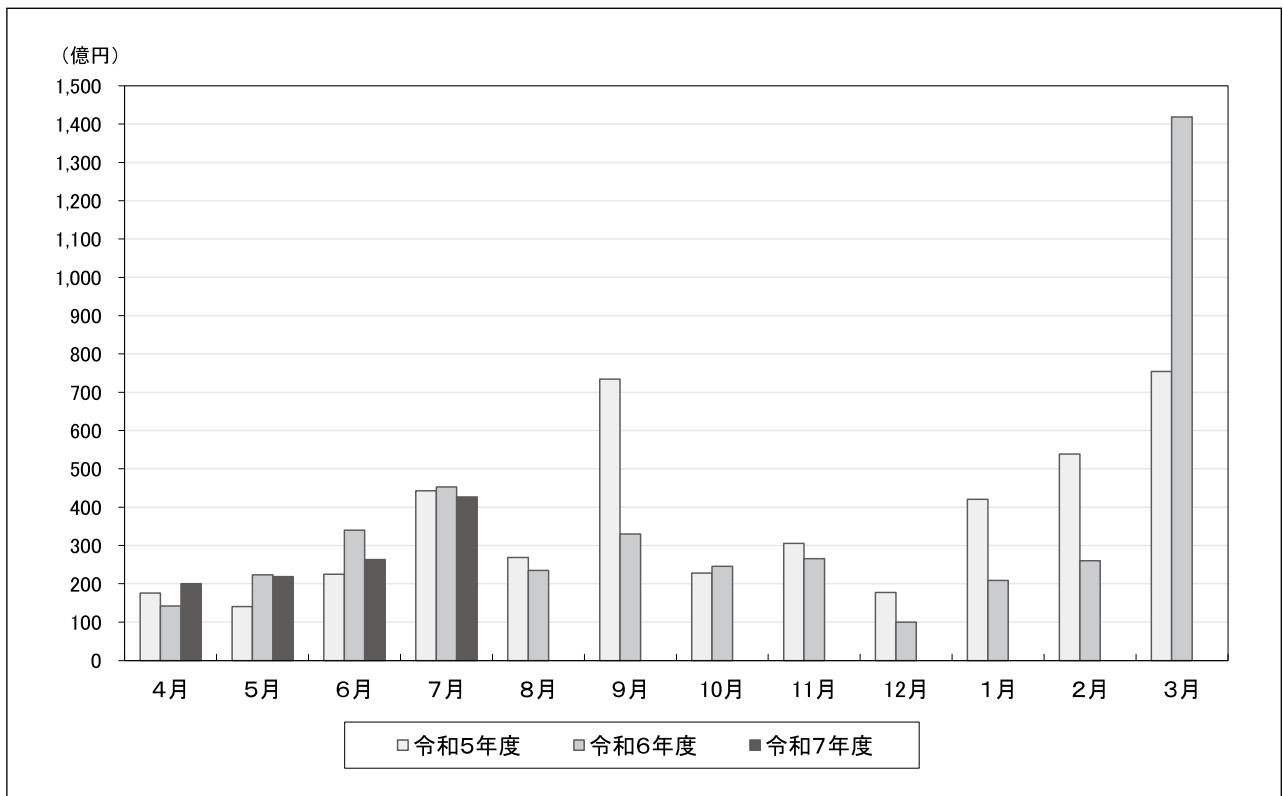
西日本建設業保証（株）沖縄支店

▼ 概況

（単位：件、百万円、％）

	当 月		増減率		累 計		増減率	
	件数	請負金額	件数	請負金額	件数	請負金額	件数	請負金額
国	43	21,020	26.5%	103.5%	148	35,208	19.4%	32.1%
独立行政法人等	3	642	▲76.9%	▲94.2%	11	1,870	▲50.0%	▲84.8%
県	83	7,325	▲19.4%	▲8.6%	275	30,001	▲8.0%	6.8%
市町村	201	12,612	11.7%	▲3.1%	486	37,373	14.4%	4.2%
その他	21	1,162	200.0%	▲59.2%	57	6,704	35.7%	▲49.0%
合 計	351	42,763	4.2%	▲5.6%	977	111,158	7.1%	▲4.2%
令和6年度	337	45,309	8.4%	2.2%	912	116,037	▲0.4%	17.5%
令和5年度	311	44,353	▲6.6%	68.0%	916	98,717	3.4%	▲7.7%
令和4年度	333	26,405	▲7.0%	▲40.6%	886	106,963	▲10.9%	▲12.7%
令和3年度	358	44,439	▲12.0%	▲0.3%	994	122,457	▲7.7%	4.7%

▼ 月別請負金額の推移



2025年8月の動き

日	曜	沖建協・建産連・土木技士会・青年部会等	その他会議・講習会等
1	金	・沖建協「地域別産学懇談会(那覇・南部・浦添)」(建労センター) ・沖建協女性部会「夏のリコチャレ2025」 (総合事務局、那覇新港ふ頭地区)	
4	月	・沖建協「地域別産学懇談会(宮古)」(宮古建設会館)	・建設業振興基金「建設業経理事務士特別研修3級(一般向け)」～8/6(水)迄(浦添市)
5	火	・沖建協「工業高校生対象小型車両系建設機械運転特別教育」～8/6(水)迄(沖縄市) ・沖建協「地域別産学懇談会(八重山)」(八重山建設会館)	
7	木	・沖建協「工業高校生対象小型車両系建設機械運転特別教育」～8/8(金)迄(沖縄市) ・沖建協「工業高校生対象建設業経理事務士特別研修(4級)」～8/8(金)迄(建労センター)	・沖縄しまたて協会「技術開発支援選定委員会」(浦添市) ・ニューレジリエンスフォーラム沖縄県大会(那覇市)
12	火	・沖建協「工事統括責任者会議(本島地区)」(ラグナガーデンホテル)	
13	水	・沖建協「地域別産学懇談会(中部)」(中部建設会館)	・沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議「総会」(恩納村)
14	木	・沖建協「工事統括責任者会議(宮古地区)」 (ホテルアトールエメラルド宮古島)	・暴力団追放沖縄県民会議「暴力団排除セミナー」(浦添市)
15	金	・沖建協「工事統括責任者会議(八重山地区)」(アートホテル石垣島)	
18	月	・建退共「法定外労災補償制度並びに建退共制度事務取扱説明会」(宮古地区)(ホテルアトールエメラルド宮古島)	・沖縄県優良県産品推奨事業「工業系製品部門最終審査会」(那覇市) ・沖縄県「沖縄県総合防災訓練第2回ライフライン部会」(Web)
19	火	・建退共「法定外労災補償制度並びに建退共制度事務取扱説明会」(八重山地区)(アートホテル石垣島)	・九建協「労務対策委員会」(福岡県)
20	水		・おきなわ建設フェスタ事務局「幹事会」(那覇市)
21	木	・沖建協「地域別産学懇談会(北部)」(北部建設会館)	
22	金		・沖縄県「美ら島レスキュー2025有識者会同」(Web)
26	火	・沖建協「不当要求防止責任者講習会(宮古地区)」(宮古建設会館) ・沖建協「工業高校生対象建設産業経理事務士特別研修(3級)」～8/28(木)迄(建労センター) ・建退共「法定外労災補償制度並びに建退共制度事務取扱説明会」(那覇・南部・中部地区)(コンベンションセンター)	・沖縄県生コンクリート品質管理監査会議「立入監査」(沖縄市) ・沖縄県雇用対策推進協議会「幹事会」(那覇市) ・沖縄県防衛協会「理事会・表彰式・意見交換会」(那覇市)
27	水	・建退共「法定外労災補償制度並びに建退共制度事務取扱説明会」(北部地区)(北部雇用能力開発総合センター)	・全国建産連「総務企画委員会」(東京都)
28	木		・建退共本部「支部担当者向けWeb説明会」(Web) ・県産品奨励月間実行委員会「実行委員会」(那覇市) ・九建協「専務理事・事務局長会議」(大分県)
29	金		・沖縄県「沖縄県職業能力開発審議会委員会」(浦添市) ・沖縄県生コンクリート品質管理監査会議「立入監査」(糸満市) ・沖縄総合事務局「沖縄県道路啓開検討協議会」(那覇市)

2025年9月の行事予定

日	曜	沖建協・建産連・土木技士会・青年部会等	その他会議・講習会等
2	火	・沖建協「1級土木(二次)施工管理技術検定試験受験対策講習会1/2回目」(建労センター) ・沖建協青年部会「沖縄総合事務局開発建設部との意見交換会」 (自治会館)	・琉球大学工学部後援会「総会」(那覇市)
3	水	・沖建協「1級土木(二次)施工管理技術検定試験受験対策講習会2/2回目」(建労センター) ・沖建協女性部会「役員会」(建労センター) ・沖建協女性部会「研修委員会」(建労センター)	・沖縄県「美ら島レスキュー2025全体会議」(Web)
5	金		・全建「建設生産システム委員会」(東京都)
7	日		・建設業振興基金「建設業経理士検定試験」(宜野湾市)
8	月	・沖建協「1級建築(二次)施工管理技術検定試験受験対策講習会1/2回目」(建労センター)	・沖縄県「障害者雇用の要請」(那覇市)
9	火	・沖建協「正副会長会議」(沖建協委員会室) ・沖建協「役員会」(建労センター) ・沖建協「総務委員会」(建労センター)	

2025年9月の行事予定

日	曜	沖建協・建産連・土木技士会・青年部会等	その他会議・講習会等
10	水	・沖縄県建設業関係労働時間削減推進協議会「建設業の働き方改革に関する労働時間等説明会(那覇～中部地区)」 (コンベンションセンター)	
12	金	・沖建協「1級建築(二次)施工管理技術検定試験受験対策講習会 2/2回目」(建労センター) ・沖縄県建設業関係労働時間削減推進協議会「建設業の働き方改革に関する労働時間等説明会(宮古地区)」(宮古建設会館)	
17	水	・沖建協・技士会「ICT活用(CIMモデル)研修」並びに「技術講習(圧入工法)」(建労センター) ・沖縄県建設業関係労働時間削減推進協議会「建設業の働き方改革に関する労働時間等説明会(八重山地区)」(八重山建設会館)	・建設業福祉共済団「評議員会」(東京都)
18	木	・沖縄県建設業関係労働時間削減推進協議会「建設業の働き方改革に関する労働時間等説明会(北部地区)」 (北部雇用能力総合センター)	
19	金		・九建協「専務理事・事務局長会議」(福岡県) ・九建協「会長会議」(福岡県)
24	水	・沖建協「不当要求防止責任者講習【本島地区】」(建労センター)	・全建「協議員会」(東京都)
25	木		・全国建産連「会長会議」(富山県)
26	金	・沖建協「工業高校生現場見学会(沖縄工業・建築科)」 (北谷町、沖縄市)	
29	月	・沖建協「支部事務局長会議並びに防災に関する研修会」 (建労センター)	
30	火		・建設産業女性定着支援NW「国交省と女性NWの合同会議」 (東京都)

[9月号会員の異動]

新入会員

支部名	那覇支部	郵便番号	〒900-0022
会社名	(株)新生実業	所在地	那覇市樋川1-11-11
代表者名	具志堅 博	電話番号	098-857-0185
設立	昭和57年1月1日	FAX番号	098-855-3351
入会日	令和7年8月12日		

【2025会員名簿誤植のお知らせ】

下記のページに誤植がございました。深くお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

ページ	会社名	誤植箇所	正	誤
P60	(株)太名嘉組	会社名	(株)太名嘉組	(株)太名部組

沖建協会報 2025年9月号(第664号)
令和7年9月1日発行
発行人 源河 忠雄

発行所 一般社団法人 沖縄県建設業協会
〒901-2131 沖縄県浦添市牧港5-6-8
TEL.098(876)-5211
FAX.098(870)-4565
編集 株式会社沖縄建設新聞

2025年10月
リニューアル!

NEW!

電子申請で業務を
もっとスムーズに!

建設現場労働者のための退職金制度

建退共

K E N T A I K Y O

電子化で、煩雑な申請や書類管理の
手間を大幅に軽減できます。

オンラインで
業務効率化!

工事関係書類の
電子化にも対応!

発注機関等への
提出作業が軽減!



詳しい情報はこちら ▶

建退共



<https://www.kentaikyo.taisyokukin.go.jp/>



建退共
建設業退職金共済制度

独立行政法人 勤労者退職金共済機構 建設業退職金共済事業本部
〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1 TEL.03-6731-2866



CIIC経営状況分析

Y点解説レポート 始めました！

当財団に経営状況分析をご申請いただいた皆様に、
貴社の経営状況の評点（Y）を分析指標毎に解析し、増減や順位を
チャートで分かりやすくまとめたレポート（Yレポート）を提供しております。
Y点アップや経営目標の参考資料として、是非ご活用ください。

Yレポートの入手方法

CIIC電子申請（マイページ）をご利用中の方は、**マイページから取得できます。**
マイページIDをお持ちでない方は、当財団所定の申込書にてお申込みください。
※代理人様が受け取る場合は、経営状況分析申請時に結果通知書の受領も委任されている必要があります。

Yレポートのおすすめポイント 詳細はホームページをご覧ください。

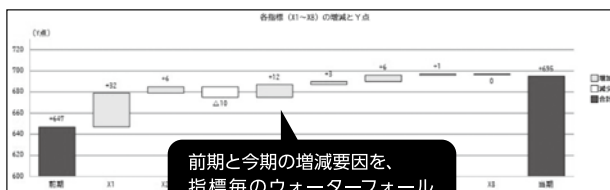
- Y点の増減要因が、X1～X8の指標毎によくわかる！
- 指標毎に、得点率や推移、Y(換算)点の増減がよくわかる！
- 指標毎に貴社の順位と都道府県の平均値との差がよくわかる！



当財団に経営状況分析を
ご申請いただいた方は、
無料でご利用になれます。

経営状況分析	得点(Y)	増減	順位	平均値	差
(X1)純支払利息比率	0.3	0.874	3.1	0.874	0
(X2)負債総額増加	0.9	4,500	18.0	4,500	0
(X3)総資本売上総利益率	63.6	24,390	118	108	+10
(X4)売上高総利益率	18.0	8,477	1,258	8,477	0
(X5)自己資本対固定資産比率	9	12	9	12	+3
(X6)自己資本比率	37	43	37	43	+6
(X7)営業キャッシュフロー	3	4	3	4	+1
(X8)利益剰余金	1	1	1	1	0

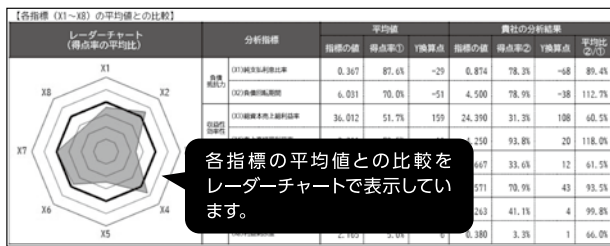
X1～X8の指標毎に得点率と
最大過去5期分の推移を表示。
指数のままでわかりづらい
Y点に換算した点数も一目で
わかります。



前期と今期の増減要因を、
指標毎のウォーターフォール
チャートで表示しています。

【貴社の順位と平均値との比較】	順位	平均値	差
(X1)純支払利息比率	3.1	0.874	0
(X2)負債総額増加	18.0	4,500	0
(X3)総資本売上総利益率	118	108	+10
(X4)売上高総利益率	1,258	8,477	0
(X5)自己資本対固定資産比率	9	12	+3
(X6)自己資本比率	37	43	+6
(X7)営業キャッシュフロー	3	4	+1
(X8)利益剰余金	1	1	0

都道府県内のY点の分布と
貴社の順位をヒストグラムで
表示。2枚目には指標毎のヒス
トグラムも掲載しています。



各指標の平均値との比較を
レーダーチャートで表示して
います。

これらのチャートの他、3期分の財務諸表（比較財務諸表）を掲載。増減要因を勘定科目レベルで分析できます。

さらに！マイページでは、**市区町村別、業種別、売上規模別**での比較や、**来期のシミュレーション**を行うことができます！
マイページIDをお持ちでない方は、この機会に是非マイページのご利用をご検討ください。
マイページIDの申込方法等、詳細はホームページの「CIIC電子申請（マイページ）のご案内」をご覧ください。

経営状況分析は“信頼と実績”の **登録経営状況分析機関 登録番号 1**

詳しい情報は <http://www.ciic.or.jp/>

または **CIIC Y点解説レポート**

検索

CIIC 一般財団法人 建設業情報管理センター 九州事務所

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東3丁目14番18号 福岡建設会館 6階

【お問い合わせ】 TEL 092-483-2841 FAX 092-483-2846

当財団は、情報セキュリティ
マネジメントシステム（ISMS）
に関するISO規格（27001）の
認証を取得しています。



新しくなって、さらに安心・納得!

手厚い補償
保険金区分合計
最高5,000万円

契約者
割戻金制度
により
掛金負担が軽減

労働者と企業の
リスクを
カバー



社員と家族、会社を守るために。

割戻金の支払いが
始まっています。

建設共済保険

法定外労災補償制度

今すぐ、
ご加入を!

「建設共済保険」の他にも、次のような事業を行っています。

育英奨学事業

被災者(死亡および障害・傷病3級以上)の
子供に対して、要保育期間および小学校
から大学までの在学期間中、返済不要
の奨学金を継続して給付。

労働安全衛生推進事業

- ① 安全衛生用品の頒布
- ② 女性専用トイレ・更衣室導入費用の助成
- ③ 安全衛生推進者表彰 等

公益財団法人

建設業福祉共済団

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門驛平タワー 11階

■ 取扱機関: (一社) 沖縄県建設業協会
〒901-2131 浦添市牧港5-6-8
Tel. 098-876-5211 Fax. 098-870-4565



正確な掛金の試算や資料請求はこちらまで



0120-913-931

受付時間 午前 9:00 ~ 午後 5:00 (土日祝を除く)

詳しくは HP をご覧ください!

建設共済保険

検索

<https://www.kyousaidan.or.jp/>



新内 真衣

STOP! 熱中症

クールワークキャンペーン

- ✓ WBGT値を意識しよう
- ✓ 水分・塩分をこまめに取ろう
- ✓ 休憩を適度に入れよう
- ✓ 緊急時の手順を確認しよう
- ✓ 体調が悪い時は仲間に伝えよう

2025 5/1 ▶ 9/30 準備期間 4月 / 重点取組期間 7月

コード No.760701
建設業労働災害防止協会

 建設業労働災害防止協会



全国労働衛生週間

藤咲 碧羽

2025
10/1~7

準備期間: 9月1日~30日

コード No.760201
建設業労働災害防止協会

 建設業労働災害防止協会